

こんにちは！！ 岩手県社会福祉事業団支援検討会です。



【はじめに】

「不定期報告いたします」宣言からあっという間に1か月。
第1号はご覧いただけただけでしょうか？

4つの検討部会もそれぞれ検討の方向性が固まり、事例を持ち寄ったり、他の施設や参考文献から情報収集したりと、活発に動き出したところです。

前は、各部会の座長さん方から決意表明をいただきましたが、今回は、昨年度から検討部会に参加している委員の皆さんに、部会の実践や思い・感想などを報告いただきました。

各部会の取組みの様子が伝わる内容をたくさん記載していますので、どうぞご覧ください。

行動障がい支援検討部会

高橋 優希(相談支援事業所「たばしね」)

「行動障がい」＝「自傷、他害、異食、不眠、パニック等」＝「怖い、嫌だ、不安、どうしよう・・・(支援者の心の声)」という図式ができあがるかもしれません。

「行動障がい」が起きる時には、原因・理由があると考えられています。イライラしてしまう、相手が伝えたいことを理解することができず不安になってしまう、体調が悪い、暑い、寒い・・・人それぞれ、様々な原因・理由で落ち着かなくなって、叩く、壊す、不穏になる、眠れない等の行動が見られてしまいます。(気になることや不安なこと、イライラすることがあれば誰でも落ち着かなくなってしまいますよね・・・)

行動障がい部会では、施設等で生活する利用者、特に重度の障がいを持つ方々が、安心して生活するためにはどのような支援・工夫が必要か、部会委員が事例を持ち寄って検討しています。事例検討では、叩く、壊す等「行動障がい」の部分のみに着目するのではなく、その人の生活の流れ、得意なこと、苦手なこと、どんな人生・環境で生活してきたか等を知り、なぜ「行動障がい」が起きるのか、その行動を軽減するためにどのような支援や環境設定をすればよいか等を質問や意見を出し合いながら検討しています。今年度は、各施設のアセスメントシートを持ち寄り、どのような様式、項目だと利用者について詳しく知ることができるか検討する予定としています。

「行動障がい」を有する方への支援はとても悩んでしまいます。ただ、一番つらい思いをしているのは利用者本人だと私は感じています。利用者の皆様が安心して生活することができるための支援を行動障がい部会で検討していければと思います。

発達障がい支援検討部会

今野 真理(岩手県立療育センター診療部)

昨年は私自身、採用1年目での参加でした。相談や支援のスペシャリストの職員が揃う中、「ついていけないのだろうか・・・」と、不安と緊張でいっぱいだったことを覚えています。

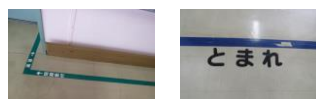
部会発足1年目は発達障がいに関する土台を構築することができました。「発達障がいで何だろう?」「現場で困っていることは何?」からスタートし、事例検討や学習会を通じて、発達障がいの方の『ものの見方』や『感じ方』を理解することができました。その中で、支援方法として「利用者理解に努め、連携を強化し、統一した対応をとること」がとても大切だということがわかりました。発達障がいの方を知る手立てのほか、どのように支援していくか、という道筋を見つけることができましたと感じています。

昨年度は、児童の事例検討が多かったのですが、今年度は大人の方の事例の検討も進めています。大人の方への支援不足が問われている今、新たに就労支援や大人の支援に取組む現場の声を聴く機会を設けています。子どもから大人に至るまで、どの年代でも対応できるように幅広い支援方法を身に付け、現場や外部へ『発信』できるよう取り組んでいきたいと思っています。

県立療育センターでの視覚支援(外来ver.)
●療育センター内の廊下



第2回の検討では、視覚支援の重要性について、学びました。



◎訓練科へ訓練予約に行くときなどに「新しい線で進めよ」と標を指さしたり、その線の前にならうと、「これで進めんだ」と理解できるお子さんが多いです。ただ、中には本当に高い壁の上しか歩かないお子さんもいます。



高齢障がい者支援検討部会

岩館 伸悟(障害者支援施設かたくり)

高齢障がい者支援検討部会では、今年度のテーマを「看取り」と決めました。これは、各事業所から持ち寄った事例や理事会などで話題として取り上げられる機会が多く、検討の重要性が感じられたことから、5月に行われた第1回の検討部会で決めたものです。

身元引受人が全くいない方や多くの疾患をお持ちの方、長期入院にて事業所での生活が困難となる方など、各事業所での高齢化の現状がすでに垣間見えています。しかし、その方々に「看取り」が必要になった時、我々はどうするでしょうか？不安ながら、なんとか長年の経験で対応するかもしれませんが、その対応が引き継がれることなく、途絶えてしまっていないでしょうか。

それらに関するガイドラインやマニュアルがあれば、職員の日々の不安を取り除き、もっとスムーズに、何より利用者さんの最後を穏やかに看取れるのではないのでしょうか。私たちはこの「看取り」について、もっと深く、もっと広く討議を重ねていきます。

まだ2回目の開催で、若手メンバーには緊張の色もあり、テーマ自体難しい部分もありますが、座長、副座長の優しさあふれる進行と、アドバイザーからの的確な助言により、着実な一歩と次なるステップを進めています。今後、皆さんの現場に活かせるものを作り出していきたいと思っています。

～部会の検討の様子(フотスケッチ)～



これからますます、
熱い議論が繰り広げ
られるはず!!



触法障がい者支援検討部会

前田 祐輝(救護施設 松山荘)

触法障がい者支援検討部会は昨年度から立ち上げられた部会です。昨年度は3件の事例検討を実施し、必要な支援や拡充すべき支援のネットワークなど、具体的な意見が多くあげられました。さらに、あげられた意見を現場で実践、部会にて報告・検討する流れができていたことで、まさにPDCAサイクルが体现された部会となりました。

部会に参加した当初、私以外のメンバーは上司や先輩ばかりで、「参加メンバーになってしまってもいいですね」という思いが正直なところでした。しかし、部会の中で私自身の考えを思い切って伝えたことで、上司や先輩方の実践的で貴重な意見をたくさんいただいたとともに、知識・技術の習得につながり、実際の支援にも活用することができました。メンバーとして部会に参加することができて、とても良かったと感じています。

今年度も事例検討が中心になりますが、部会メンバー以外の施設や事業所からも事例提供をいただくこととなっております。また、事例検討の中で触法障がい者を受け入れる際の職員の不安、受け入れにあたっての基本姿勢、配慮した点、受け入れ前と受け入れ後の職員の心境の比較、受け入れ後のご本人の様子の変化、支援を行うにあたって困った点、各事例に対するリスクのポイントなどをあげて整理していく方針となっております。さらに、研修会も予定しておりますので、多くの方々に参加していただくと嬉しいです。

『触法』ではなく、『罪を犯してしまった障がい者』という考えのもと、触法障がい者支援検討部会メンバーとして、触法障がい者に対する不安感や抵抗感の解消、受け入れ拡大の一助となれるよう、精いっぱい頑張っていきたいと思っております。

【今後の予定】

★7/14(木) 第2回支援検討会

各部会座長、副座長、アドバイザーによる、検討経過の確認とまとめに向けた話し合い

【各部会第3回開催状況】

☆7/19(火) 触法障がい者支援検討部会

☆7/27(水) 発達障がい支援検討部会

☆7/29(金) 高齢障がい者支援検討部会

☆8/4(木) 行動障がい支援検討部会

編集後記

なんとか第2号の発行を順調(?)に終え、少々安心してはいるところですが、内容はいかがだったでしょうか。各部会メンバーへの無茶振りはもちろんのこと、メンバー以外の方にも担当者権限で突然原稿依頼をお願いすることがあるかもしれませんよ。常に、気にかけてくださいね。

7/14の座長等による検討会では、1月に予定している報告会(仮)をどのようにまとめていくか、協議する予定にしております。「こんなことをやったらいいんじゃないか!」、「〇〇先生の話を知りたい」など、皆様からのアイデアを募集中ですので、どんどんお寄せ下さい。

